

中核事業



ライフサイクルビジネスの 深化と進化、構造改革を通じて、 経営資源を創出

「グループ経営方針2023」における役割

IHIグループは、資源・エネルギー・環境、社会基盤、産業システム・汎用機械の3分野をグループの中核を担う事業と位置付けています。この3分野では、お客さまの保有する装置や機械のライフサイクルにおいて、故障予知や長寿命化を支援しています。さらに、ライフサイクルに深く入り込むことで得られた知見やノウハウを反映した新たな製品・サービスを提供することで、お客さまの価値の最大化に貢献しています。

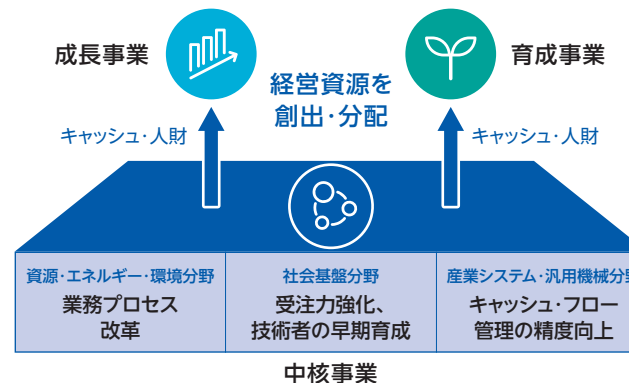
「グループ経営方針2023」においては、ライフサイクルビジネス(LCB)の深化と事業構造改革を通じて利益を上げ、成長、育成事業への経営資源(キャッシュ・人材)を創出する役割も担っています。

原子力におけるLCB

IHIグループはエネルギー事業の一つとして原子力事業に注力しており、発電所の建設から廃炉まで、ライフサイクル全体にわたる事業の拡大を推進しています。IHIグループの原子力事業における強みは、国内唯一の「ガラス固化技術」や、横浜工場を中心とした「原子力分野で求められる高い品質基準を満たした機器を製造する能力」を保有していることにあります。この強みを生かして、原燃サイクル・廃炉・廃棄物対策といったバックエンド事業に対応しており、特に使用済み燃料の再処理工程では、国内唯一の設計・製造技術を保有しています。これらの技術をさらに強化することで、原子力分野のトップメーカーとしての地位確立を目指しています。

東日本大震災以降、原子力発電所の安全性に対する社会的

中核事業を中心とした資本の流れ



横浜工場

中核事業

関心が高まり、原子力規制委員会は2013年に新規制基準を策定しました。この基準は、地震・津波・重大事故などへの対策を強化するものであり、国内の原子力発電所はこの対策を完了したものから段階的な再稼働を進めています。2025年時点では、全国に33基ある原子炉のうち14基が新規制基準に適合し、すでに再稼働しています。IHIグループでは、今後再稼働が予定されている国内軽水炉に対して、新規制基準対応のための安全対策工事を進めています。

再稼働が進むと、使用済み燃料の処理が必要となり、核燃料サイクルの確立が重要な観点となります。青森県六ヶ所村に建

設中の再処理工場では、主要設備の設計・製造に関与しており、この施設でのLCB拡大にも取り組んでいます。

また、福島第一原発の廃炉に向けて、東京電力ホールディングス株式会社と共同で東双みらいテクノロジー株式会社を設立し、燃料デブリ取り出しに向けた廃炉技術の開発を進めています。

今後も国内で再稼働が継続して計画されていることに加え、中長期的には高い技術力を生かした次世代革新炉のグローバル展開も視野に入れており、原子力事業においては、2030年代に売上収益1,000億円を目指しています。

カーボンソリューションにおけるLCB

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、IHIグループは自社の強みとなるカーボンソリューション技術を生かしたLCBの積極的な提案を通じて、新たな事業機会の創出と顧客基盤の拡大を目指しています。

国内においては、2030年に向けて非効率な石炭火力発電のフェードアウトが求められています。IHIグループは、長年培ってきた燃焼技術および制御技術を核に、国内外で多数のボイラー納入実績を有しており、これらのボイラーを使用する既設火力発電所に対して、定期点検対応に加え、ゼロエミッション化や高効率運転の継続を可能とする製品・サービスを提供することで、GHG排出の削減に貢献しています。また、収益性の向上を図るため、国内事業の構造改革にも着実に取り組んでいます。具体的にはIHIとIHIプラントが一体となり、組織の最適化や人材の最適配置を進めることで、業務効率の向上とコスト削減を実現しています。

海外においては、高効率化や燃料転換ニーズに対応する高付加価値案件の獲得に注力しており、事業展開を加速させています。

さらに、石油化学分野におけるプラント改造や排水処理などを国内外で展開し、LCBの対象領域を拡大することで、環境負荷低減関連の事業成長を目指しています。

原子力事業の強み

